

〔蒜山だより〕

「酪農に夢を抱いた学生たちが入学しました」

財団法人中国四国酪農大学校 教務課 長綱 則之

今春も蒜山の地に大きな夢を抱き、牛好きな学生たちが29名入学し、将来は酪農や畜産業に係わる仕事に就きたいという若者が本校に集まってきました。ここで簡単に学生の紹介をしたいと思います。

入学してきた第46期生は29名で男子は16名、女子13名と多く、出身地別で見ますと北は東京から南は沖縄と広範囲に渡っています。岡山県出身者が11人です。また、非農家出身の学生が23人おり、はじめて牛に触れる学生もいますが、酪農に対する意識の高まりをうかがわせ、うれしい限りです。

当酪農大学校では主に実践教育に重点を置き、将来は、日本全国それぞれの地域で活躍する後継者や指導者となるように、毎日の実習と講義に加え、社会にでてからの礼儀などに明け暮れています。学生の1日については、まず朝5時30分から搾乳が始まりますが、まだ早起きに慣れていないせいか、搾乳当番の学生は眠い目をこすりながらも、各牧場で牛と触れあいながら作業をこなし、学生同士が助け合いながら必死に頑張っているところですが、今のところ遅刻をする学生はあまりいないようです。その後は、講義をしています。居眠りしそうな学生は何人かいます。睡魔と闘いながら酪農の知識を身につけようと一生懸命ノートに書いているみたいです。午後14時30分からは、また作業をこなす夕方5時頃には、すべての作業が終わります。それからは夕ご飯とお風呂を済ませ、その後は、外でソフトボールや体育館でバスケ等をして遊んだり、部屋で自分の将来について話し合ったりしているみたいです。一通りの作業の内容も覚え、日に日に牛の扱いも上手くなっているようにも見え、まだ入学して2ヶ月程ですが、入学当初に比べて後ろ姿が少し大きくなったように見受けられます。

また、酪農大学校は全寮制で一部屋に2人ということもあり、一日中、朝から晩まで一緒という生活には戸惑うことが多く不安な生活を送るように見え

ますが、今年の学生は社交的なところもあり、しかも明るく、一致団結し、先輩達とも仲が良く、毎日楽しく生活しているみたいです。

寮の食事は美味しくてボリュームがあるので学生達の1つの楽しみです。また、学生同士で食べる食事はにぎやかで遠足に行った気分で食べるので、家で食べるご飯とは、またひと味違ったおいしさがあるのかなと思います。

寮生活をするうえで、時には意見の食い違いでぶつかったりすることがあると思います。学生も日常生活をする上で自分のわがままだけでは、やっていけないことに気づき、我慢強さも身に付いているように見え、集団生活を通して悩むことも沢山ありますが、個々が1日1日少しずつですが大きくなっていくように見受けられます。2年後には学生達も卒業し、社会人となりますが、いろいろな壁にぶつかり悩むことが沢山あると思います。本校で培った経験と前向きな気持ちで乗り切って行って欲しいと願っております。

